第10回企画展

雑誌に見る戦中戦後

■とき　平成7年10月31日(火)～8年1月26日

休館日　毎週月曜日・祝日（11月3日を除く）・第3木曜日

年末年始　12月28日～1月4日

■ところ　徳島県立文書館

徳島県立文書館
〒770 徳島市八万町向寺山 TEL (0886) 68-3700

❖ 支那漫画鳥瞰図

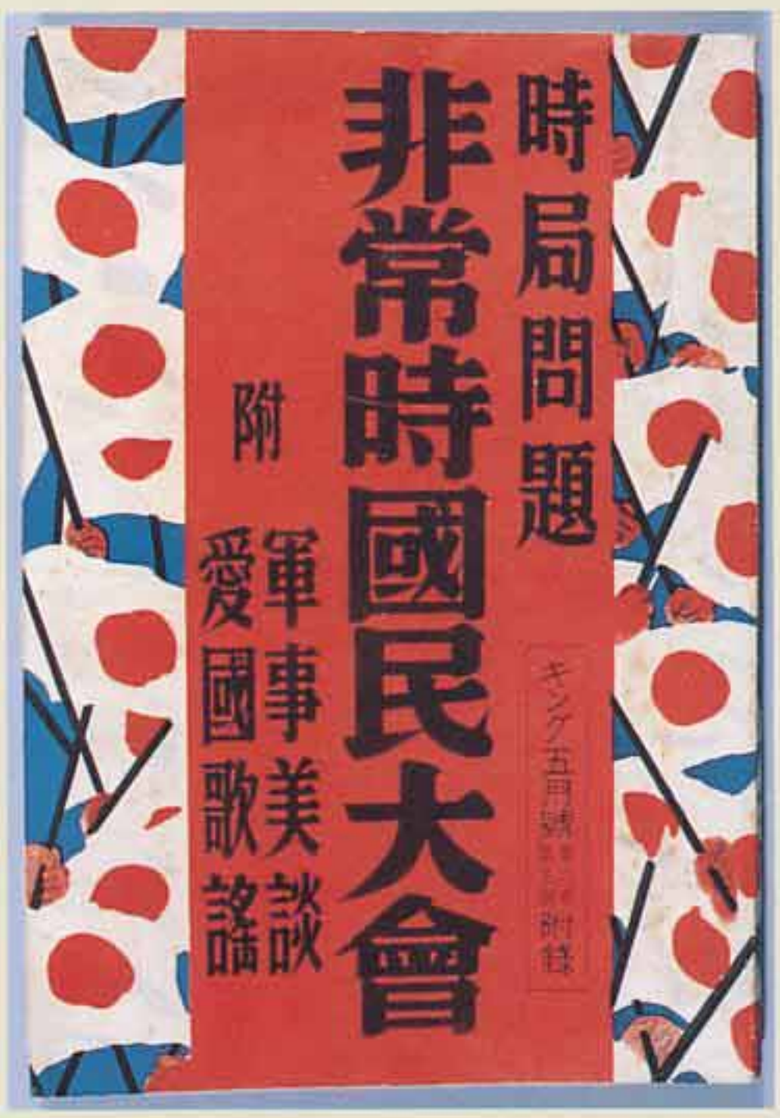
この地図は、昭和六年十一月に作られたものです。昭和六年といえば、九月十八日満州事変が起こり、その後中国との十五年戦争の発端になった年です。解説を読むと「一般国民にごく平俗な興味の内に、支那（中国）の輪郭と現状を明らかに知らしめ、今回の事変についての知識を注入し、全国民的な関心を高めようとした」ものであることがわかります。

また「急遽着手し発行を急いだので時間的な余裕が無く、遺憾の点が多いが、編案の目的はこれで達しているのであろうと信ずる。」とあるように、事変からわずか二・三カ月でカラー刷りの地図を作り上げたものであります。そのほか鉄道や石炭や金などの戦略的な産物、駐屯する軍隊の数、時局の簡便な解説まで付いています。

中国や満州は、日本軍の戦場として多くの関心は持たれていたと思われますが、国内では、まだまだ満洲という大陸の遠いところで起こったことであるという雰囲気の中で、このような地図が作られる必要があったのでしょう。「時局」ということばがまだ耳新しいころでした。

この後翌七年一月には上海事変、三月には満州国建設などこの方面への関心はさらに高まっていきました。中国との戦争は底なしの沼のように続き、日本は破局への道を歩き始めました。

講談社の「キング」は大正十四年に創刊された大衆雑誌で、昭和三年には当時としては破格の記録である発行部数一五〇万部で、国民に大きな影響力を持つにいたりました。大衆誌にこうした政治問題が特集されるのを見ても、「非常時」や「時局」という言葉によって、国民が国の政策に結びつけられていった様子がわかります。



雑誌「キング」　時局問題非常時国民大会
（昭和８年５月付録）

ごあいさつ

本年は、戦後五十年の記念すべき年であります。すでに十月十七日より開催中の文化の森開園五周年記念の共同企画展示において文書館は「徳島の復興」と題した展示を行っています。

今回、文書館独自の企画とし『雑誌に見る戦中戦後』展を開催いたすことにいたしました。五周年記念展示とともに見ていただければ、場所と時代を異にする世界を大きな流れとしてとらえていただけるものと思います。

今回の展示を通じて、強く感じたことはほぼ五十年の間に想像もつかないような大変化を、徳島が、日本が、そして世界全体が遂げたということであり、さらにその速度を速めながら現在も変わりつつあるという現実であります。

私たち文書館職員は、この大きな変化の中で記録資料保存の重要性を痛切に感じました。それは珍しいものを残すという行為ではなく、雑誌などのような日常的な記録、ありふれた印刷物を継続的に保存されることにより、見えなかった世界が明確に姿を現すという「平凡な大真理」の実感であります。

展示資料は、ほとんど横井家文書であり、この膨大な資料を保存されてきた横井家代々の方々に対して心から敬意を表するものであります。

平成七年十月三十一日

徳島県立文書館長　大和武生

戦争と出版物

近代戦争の特徴は、優秀な兵士を得る可能性のある国民皆兵制度であります。ナポレオン軍が強かったのは、当時ほとんどの国が傭兵軍であったヨーロッパで、フランス革命の成果を守ろうという意識を持った優秀な国民兵が戦ったためであったといわれています。

近代戦争では、国の首脳者が宣戦布告をしても、戦いは双方の国民どうしの総力を上げた組織戦となります。このためいかに自国民を掌握するか、いかに自国民に戦争の正当性を伝えるかが、勝利への大きな鍵となります。

第二次世界大戦では、ナチスドイツは国民への宣伝を重視し、最高幹部ゲッペルスを宣伝相に配置して国民思想の操作を積極的に試みました。

日本では昭和年間に入り、写真技術の向上や印刷機材の発達などにより、雑誌の発行が急速に伸びてきました。こうした状況のもとで、政府・軍部は明治以来いろんな口実で出版物の規制を行っていましたが、日中戦争の勃発したころから検閲を強化したため、発禁（発売禁止）本が急増することになりました。

昭和十二年の前半では月平均一六五冊の発禁であったものが、後半には月二六四冊に増加しています。さらに翌十三年には『国家総動員法』第二〇条に「政府ハ戦時ニ際シ国家総動員上必要アルトキハ勅令ノ定メル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付キ制限又ハ禁止ヲ為スコトヲ得」と法的に明確な根拠付けを行い、合法的に出版物の統制に乗り出しました。こうして昭和十二年から十六年までの五年間に約一万冊の図書が、「発禁」処分を受け、国民の目に触れることなく抹殺されていきました。

さらに進んで検閲を担当する内務省警保局の有力メンバーであった陸海軍報道部、内閣情報部、および政府の外郭団体の大政翼賛会や国民精神総動員本部などの諸組織が、幾重にも重層して新聞社や出版社と定期的な会合を持ち、発禁条件を示したり、「好ましからざる著者」の名をあげて進歩的な人物を出版界から締め出すなどの策動を行いました。

こうした状況から発禁処分や弾圧を避けるために政府や軍部の気にいらないことを書かないといった出版界の消極的態度から、生きのびるために積極的に戦争政策に荷担する方向に徐々に変わっていきました。

出版までの準備期間の長い書籍に比べ、雑誌はその時代を最もよく反映する出版資料であるといえるでしょう。

横井家文書

「雑誌に見る戦中戦後」展の資料は、ほとんどすべて横井家文書であります。

横井家は、那賀郡那賀川町で、江戸時代には回船業（運送業）を営んでいましたが、明治時代から林業に転じました。

その後、戦後まで同地で大規模に、林業・製材業を経営してきました。

昭和三十年代にいたり芦屋市に根拠地を移し、横井林業㈱として、林業を中心にしながらも多角的経営に乗り出して現代に至っています。

横井家の資料は、相当数の大福帳と若干の古文書の他は、図書資料が中心で、その内容は極めて多岐に渡っています。「国訳漢文大成」「通俗二十一史」などの漢文系、「近世実録全集」「群書類従」などの古文系、ブリタニカ百科事典・資本論・ヘーゲルなどの洋書、日本語図書ではマルエン全集、トインビー『歴史研究』、経済書から地方史関係まで幅広く分布しています。

中でも強く興味を引かれるのは「改造」「中央公論」「アサヒグラフ」などの雑誌であります。発行部数の少ない珍しい雑誌がある反面、「キング」などの大衆誌はほとんど含まれていないという特徴があります。

この膨大な資料の主な収集者は先代の横井次郎氏であります。書籍の内容から戦中と戦後を生きた地方知識人の精神的軌跡をかいま見る思いがいたします。

また横井家では、井筒館と名付けて資料館を造り、広く公開する意図を持っていました。

❖統制されゆく雑誌

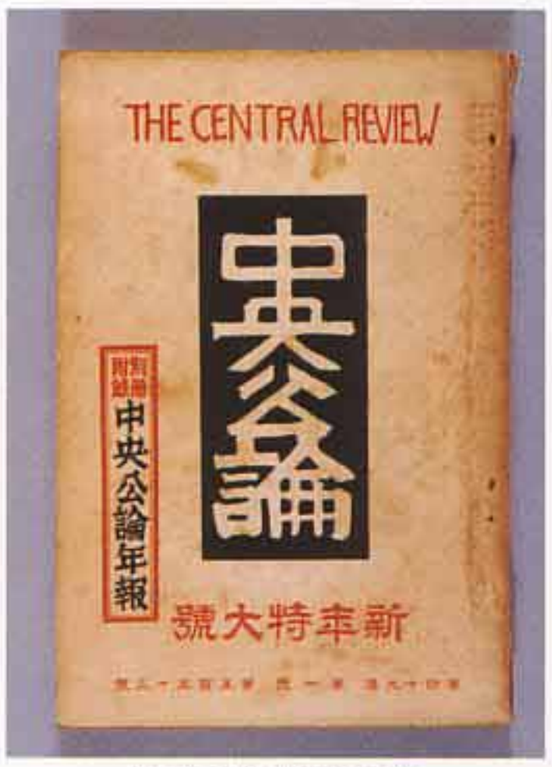
昭和六年九月十八日に勃発した「満州事変」を契機にして新聞・雑誌・放送は、急速に軍国化の道をたどることになります。

そもそも言論や表現自由をうたった憲法もなく、明治四十二年に施行されていた「新聞紙法」には、発売禁止の条項まで盛られていました。さらに、大正十四年にはあの「治安維持法」が成立しており、まさに統制へのお膳立てはできあがっていました。

経済的にも、昭和二年金融恐慌がおこり、さらに四年十月からは世界的な恐慌の嵐が吹き荒れており、第一次大戦後にわいた好景気感は無くなっていました。昭和五年には全国で二十万人の欠食児童が出、「大学は出たけれど」というような言葉が流行するほど旧制の大学卒業生でさえが職にありつけないという異変が起こっていたのです。その中で小作争議や労働運動などの社会運動が活発化していました。しかし、財閥は満州事変勃発とともに戦争景気によって息を吹き返し、不況とともに育っていた急進的な社会主義運動は、治安維持法と言論弾圧のため急速に退潮していき、軍国的な社会運動が台頭していくようになりました。

大正デモクラシーを支えた雑誌に、市場を二分したとされる明治三十二年刊の「中央公論」、大正八年刊の「改造」があります。「中央公論」は吉野作造らのデモクラシー論議に論文発表の機会を与え時代の潮流を作り上げたとされています。また、「改造」は、労働運動や社会主義的な論陣をはって特に昭和初期には伏字や発禁処分になることもしばしばありました。「中央公論」は昭和十三年四月の発禁処分をきっかけにして、「改造」も昭和十四年には新体制という名の軍国化運動と同調する形で、生き残りを図っていきました。

「改造」昭和４年



「中央公論」昭和７年

❖銃後の生活

昭和十年、国産のパーマネント機が作られ急速に普及し始めました。そんなパーマが早くも二年後の十二年には「パーマネントはやめましょう」のかけ声が始まり、十四年には追放されることになりました。

十二年の日中戦争開始後、国民の生活は徐々に軍時体制化していきました。学校には、皇国史観を強めるために「国体の本義」を配布し、翌十三年には、国民の経済生活全般を管理するための国家総動員法が公布されました。またさまざまな代用品（スフ・木製のバケツなど）が出回るようになり、灯火管制や種々の配給・切符制度によって、生活は締め付けられていきました。

しかし、このころの国民生活を婦人雑誌から見てみると、まだまだ洋裁・洋服・洋食がかなり受け入れられていたことがわかります。一方、報国・更生服・国策料理・慰問などの言葉も現れています。物資節約や経済統制が強硬に言われ始めたのは昭和十五年であることがわかります。

さらにこの年には、外国風の芸名や名称が禁止されたり、ネクタイ・指輪などが奢侈品等製造販売制限規則によって禁止されました。国民生活全体が、軍隊の後つまり「銃後」となったのです。

婦人倶楽部　昭和15年10月号付録

婦人倶楽部　昭和15年10月号付録

婦人倶楽部　昭和15年10月号付録

1926〜1940

デモクラシーから統制の時代へ

大正12	9	1	関東大震災。総被害額60億（国家予算の4倍）
14	3	1	ラジオ放送はじまる。翌年には日本放送協会（NHK）が設立。
昭和元	4	22	治安維持法が公布され、反体制的な思想を弾圧。
	12	25	昭和と改元。
2	3	14	金融恐慌おこり、銀行が預金取付にあう。
	5	28	第1回全日本オープンゴルフが開催。
	12	30	東京で日本初の地下鉄（浅草－上野間）が開通。
3	2	20	初の普通選挙（男子のみ）による総選挙が行われ、無産諸派から8名が当選。
	6	4	中華民国元帥張作霖の爆殺事件。
4	10	24	世界恐慌がおこる。
5	4	22	ロンドン海軍軍縮条約が調印され、米国に対して日本は約7割に抑えられる。
	11	14	浜口雄幸首相が狙撃。
6	9	18	満州事変が勃発。
	12	13	金輸出の再禁止を決定。
7	3	1	満州国の建国を宣言（執政は溥儀、実権は日本軍）。
	3	18	国防婦人会が大阪で結成。
	4	24	第1回日本ダービーが行われる。
	5	15	犬養首相が海軍将校らに暗殺。（5・15事件）
8	3	27	満州からの撤退勧告を受け国際連盟を脱退。
9			この年東北地方大凶作。欠食児童、娘の身売り激増。
10	9		第1回芥川賞、直木賞が決定。
11	2	9	初のプロ野球の試合が行われる。
	2	26	高橋是清蔵相、斉藤実内相ら青年将校・下士官らにより暗殺。（2・26事件）
12	11	25	日独防共協定が成立。
	2	11	文化勲章が制定される。
	7	7	盧溝橋で日中両軍が激突（日中戦争が始まる）。

❖「文化」と「モダン」

大正末期から昭和初期には、明治時代の「文明」に対して「文化」という言葉が流行していました。庶民のあこがれとして大流行した「文化住宅」をはじめとして、文化生活・文化ナベ・文化包丁・文化村など文化を頭につけた言葉が氾濫していました。

都会では、モボ・モガ（モダンボーイ・モダンガール）がもてはやされ、彼らの風俗として、カフェ・ダンスホール・ジャズ・パーマネント・トーキー・オペラ・文庫本・スポーツ（ゴルフ・テニス）の流行など新しい都市文化が花開いていました。

新聞・雑誌は大衆化が進み、大正十三年には「大阪朝日」「大阪毎日」の両新聞は百万部を超え、昭和三年には、講談社の大衆雑誌「キング」が一五〇万部を突破するなど現代につながるマスメディアが現れてきました。また、大正十四年にはラジオ放送が始まり、大正十五年には三局が合同し日本放送協会（NHK）ができました。さらに昭和三年には北海道札幌から、九州の熊本までの全国放送の基幹線が完成し、全国中継が行われるようになりました。これらのメディアは、大衆の好みを反映する段階から、送り手が大衆の好みを作り出す段階へ到達していました。

マスメディアの発達は、都会の生活を全国に普及させ文化の大衆化に拍車をかけました。こうして大衆に浸透したメディアがのちの軍国主義普及の手段として機能するようになりました。

婦人公論　昭和2年6月号

漫画　下川凹夫

軍馬の手入
ヒヽン…ドウ〳〵ドウイタシマシテ
オ前モ俺モ…国ノタメダ…御苦労ダナァ…
オイ〳〵ソンナコトハオ互ヒダ…手入ヲシッカリヤレヨ…

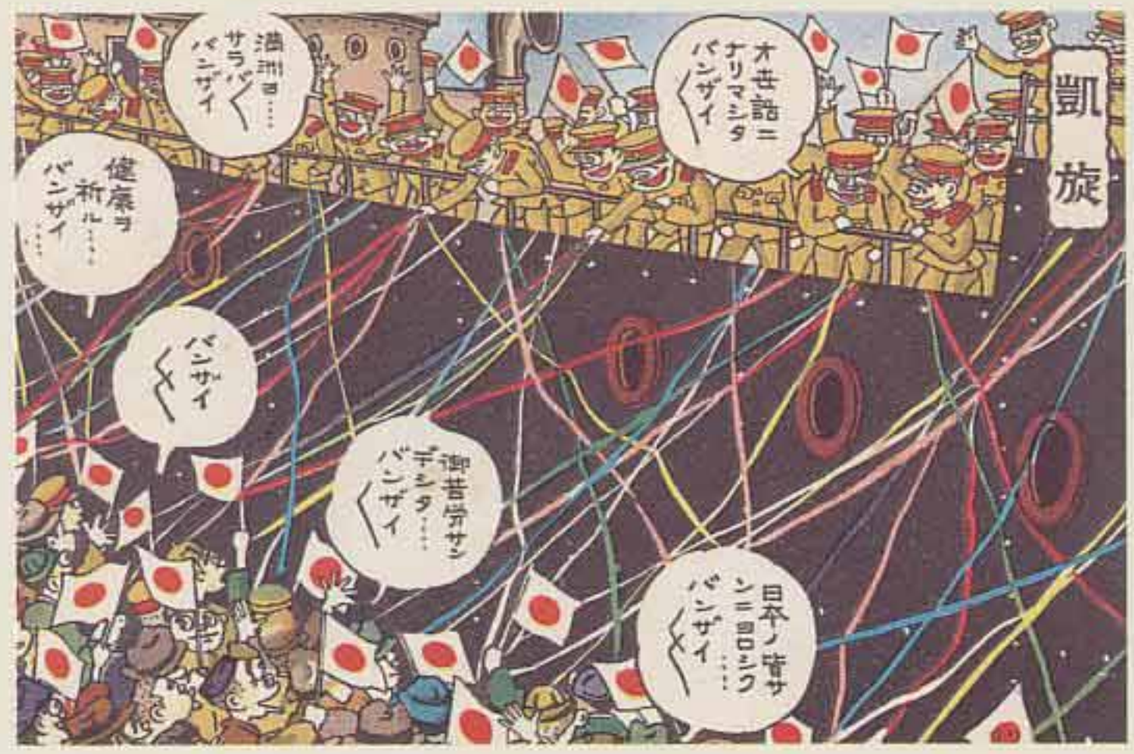
戰車隊
吾ガ戰車隊ノ威力ハ一寸コンナモノダ…

進撃前進
射撃…開始…射テッ…
メチヤ〳〵ニヤツツケテシマヘ…

陣中の正月
ウムッ…餅ガノドニツカエタ…誰カ水ヲクレ…
陣地デゾウニヤオトソヲ祝ヘルトハ目出タイネ…
サア…オトソダ一パイ呑メヨ…
ゾウニモウマイガオトソモオイシイゾ…

訓示
永々…御苦労デアッタ…益々健全ヲ祈ル…

重機關銃戰車隊
装備ハ出来タ…サア出動スルゾ…
オイッ…シッカリヤロウゼ…


凱旋
オ世話ニナリマシタバンザイ
満洲ヨ…サラバ〳〵バンザイ
健康ヲ祈ル…バンザイ
バンザイ〳〵
御苦労サンデシタ…バンザイ
日本ノ皆サンニヨロシク…バンザイ

雪の進軍
退却〳〵トテモカナワン…
突撃ッ…〳〵

❖ 絵はがきに見る戦争の虚実

この絵はがきは、一軍隊が日本から満州へ出征し、無事に凱旋するまでを描いたものです。当時流行した親しみやすい「漫画」を使ったもので、三十二枚でひと組となっています。

戦闘の悲惨さや軍隊内の封建性などの側面を極力出さずに厳しさの中にも楽しい軍隊生活を描き、特にこれからの軍を担う少年にアピールすることをねらったものでありました。

年代は不明であるが、内容からいって昭和七～八年頃、満州事変勃発の時期に書かれたものでしょう。この絵はがきの最後には、凱旋して喝采によって迎えられる図柄がありますが、実際には日中戦争は泥沼化し、さらに世界からも孤立するという道を歩んだのです。

❖統制下の出版物

昭和十二年十一月商務省は、雑誌各社に二〇％の用紙削減を申し渡しました。昭和十五年五月十七日、内閣情報部の中に新聞雑誌統制委員会を設置し、軍国主義的な国策のＰＲをしない雑誌社には紙を回さないという仕組みをつくりました。さらに十二月十九日には、それまであった出版諸団体が解散し、日本出版文化協会に統一されました。この組織は、用紙の年間配給割当案を作成する権利を持っていました。

こういった軍国主義的な出版体制の中に、各雑誌は追い込まれていきました。改造社の「大陸」は、昭和十七年二月号から「時局雑誌」と名前を替えなければなりませんでした。ずっと西暦を記していた「改造」も昭和十五年十月号からは神武天皇の即位紀元とする皇紀の表示をし、陸軍記念日のあった昭和十八年三月号には「撃ちてし止まむ」の標語を入れることになりました。しかし、結局この年の六月号を最後に改造社は解散に追い込まれ、両雑誌とも廃刊となりました。

それらの雑誌にかわり極端に少ない情報を得るために全国的に広く読まれたのが、内閣情報局編さんの「週報」でありました。

改造　昭和18年３月号
（皇紀2603年）

時局雑誌　昭和17年11月号

週報　昭和18年

改造　昭和19年３月～６月号

❖戦後と占領

軍国主義の締めつけから解放された戦後の社会には、さまざまな情報が押し寄せてくるようになりました。

新聞は、ＧＨＱからの検閲が十月九日からはじまりましたが、民主化や思想・言論の自由をという国民の要求を止めることはできませんでした。翌二十一年には「改造」「中央公論」も復刊し、「世界」「展望」などの新しい雑誌や出版社の創業も相次ぐようになりました。新聞の印刷も十二月一日からは、左書き・新かなづかいとなり新しい時代を開いたのです。

しかし用紙の事情は決して良くなったわけではありませんでした。また店頭にはいわゆる「カストリ雑誌」が氾濫し、まだ先の見えない暗い世相を映していました。

さらに、戦中もっとも厳しく統制されていた、社会主義的な雑誌や出版物も出されるようになり、そして十一月三日に思想・言論の自由を保障した日本国憲法が公布されることによって現代日本の基礎が築かれました。

展望　昭和21年

改造　昭和21年２月号

新聞　新かなづかいへの変更
昭和21年９月

ソヴェト文化 創刊号　昭和21年

1941～1950

耐乏の時代から終戦へ

昭和13 4 1　国家総動員法が公布。
14 4 12　米穀配給統制法が公布、自由に米が外食できなくなる。
15 9 1　ドイツ、ポーランドへ侵攻。（第二次世界大戦勃発。）
12 22　米国、新日米通商航海条約などの締結を拒否。
15 3　内務省、外国風の芸名などの改名を通達。
7 6　奢侈品（指輪・ネクタイ・絹織物等）等製造販売禁止規則が公布される。
9 27　日独伊三国同盟が締結。
10 12　大政翼賛会が結成（既成政党の解散）。
11 10　紀元二六〇〇年祝典が挙行。
16 4 1　小学校を国民学校に改称する。
4 13　日ソ中立条約が調印される。
12 8　ハワイ真珠湾攻撃。米・英国に宣戦を布告。（太平洋戦争が勃発）
17 5 20　翼賛政治会が結成され事実上一国一党状態となる。
18 3　野球用語の日本語化が決定。
9 8　イタリア、無条件降伏。
19 8 4　一億総武装化が決定。（竹槍訓練などが本格化）
10 25　神風特攻隊、レイテ沖で米艦を攻撃。
20 3 9　東京大空襲（22万戸焼失、12万人死傷）
5 7　ドイツが無条件降伏する。
7 4　徳島大空襲（死者約1千人、約1万8千戸が罹災）
8 6　広島に原爆が投下（死者14万人、9日には長崎も）
8 15　天皇、終戦の詔勅を放送（玉音放送）。
8 28　連合国最高司令官マッカーサー厚木に到着する。
9 2　日本、降伏文書に調印する。
10 9　GHQ、五大新聞の検閲開始。
10 11　GHQ、日本の民主化に対する五大改革（婦人解放・労働組合の結成・教育の自由化・警察制度の改革・経済の民主化）を指令する。

❖印刷物の語る戦争

太平洋戦争に入ると生活物資も不足し、国家総動員法公布をきっかけにさまざまな物資が切符制や配給制となりました。もんぺ・ゲートル・防空ずきんといった非常時服装や、「ほしがりません勝つまでは」「撃ちてし止まむ」「一億火の玉」という言葉が表すように、国民生活は悲壮な軍国主義一色につつまれてしまったのです。

極度の統制の中で大多数の国民が得られる情報は、軍国主義的な内容のものしかありませんでした。また、生活そのものも「非常時」の名のもとに極度に制限されていたのです。

大阪毎日新聞付録　昭和16年8月13日

徳島新聞　昭和20年7月5日

衣料切符　昭和17年

防空音響信号表

徴兵検査後の心得　昭和19年

燈火管制並防護実施心得　昭和15年

❖東洋経済新報の終戦

東洋経済新報は、明治二十八年十一月十五日に創刊された経済雑誌であります。論調は一貫して自由主義であり、財政や経済の大勢を論ずる「公経済」を得意としていました。戦中には、満州事変・日中戦争の全面化・日独伊三国同盟の締結にも反対の姿勢を示していました。

横井家の資料の中には昭和二十年代だけで十九冊が残っています。昭和二十年六月十六日発行の二一七六号には「竹槍戦争観の否定」という社説で、終戦直前とはいえ、鈴木首相の言葉を借りながらも、竹槍訓練を精神訓練としても非科学的で見当違いであり、むしろ恥べき狂態だとまで論じています。経済という大きな実体から精神論のみの空しさを説いたものであります。

八月二十五日発行の二一八六号には、八月十四日終戦詔書の全文をかかげ「更生日本の門出、前途は実に洋々たり」という見出しで堂々と終戦を肯定して論じました。

その後昭和三十五年には「週刊東洋経済」と名をかえ現在まで続いています。

詔書

更生日本の門出

前途は實に洋々たり

展示資料目録

資料名	年代	出版社	備考
1 婦人倶楽部	昭和2～	講談社	横井家文書
2 婦人公論	昭和2～	中央公論社	〃
3 改造	昭和4～	改造社	〃
4 中央公論	昭和7～	中央公論社	〃
5 セルパン	昭和8～	第一書房	〃
6 キング	昭和8～	講談社	〃
7 文藝春秋	昭和8～	文藝春秋社	〃
8 主婦之友	昭和13～	主婦之友社	〃
9 週報	昭和15～	内閣情報局	〃
10 週間朝日	昭和15～	朝日新聞社	〃
11 東洋経済新報	昭和16～	東洋経済新報社	〃
12 時局雑誌	昭和17～	改造社	〃
13 戦線文庫	昭和18～	興亜日本社	〃
14 現代	昭和19～	講談社	〃
15 アサヒグラフ	昭和21～	朝日新聞社	〃
16 展望	昭和21～	筑摩書房	〃
17 ソヴェト文化	昭和21～	ソヴェト研究者協会	〃
18 女性改造	昭和21～	改造社	〃
19 自由	昭和21～	自由社	〃
20 潮流	昭和21～	吉田書房	〃
21 世界	昭和21～	岩波書店	〃
22 世界評論	昭和21～	世界評論社	〃
23 支那漫画鳥瞰図	昭和6		村上家文書
24 奉公袋	昭和10年代		真島家文書

1950〜

戦後から多様な社会へ

昭和21
2 17 新円切り替えが実施。
4 10 婦人参政権が認められた初の衆議院選挙で39名の女性議員が誕生。
11 3 日本国憲法が公布。
12 21 南海大地震（死者約二〇〇名）。
22
1 31 GHQ、2・1ゼネスト中止を指令。
4 20 第1回参議院選挙。
23
11 12 戦争責任を裁く東京裁判で、25被告に有罪判決。
24
3 1 収支均衡財政のドッジ＝ラインを指示。
4 23 1ドル＝360円のレートが設定。
7 6 下山事件がおこる（国鉄定員法に関連）。
8 26 直接税（所得税）中心のシャウプ勧告を発表。
25
6 25 朝鮮戦争が勃発。
7 8 警察予備隊を創設。
8 14 パン給食を実施。
11 10 NHKでテレビの定期実験放送が始まる。
26
4 11 マッカーサーが解任。
9 4 サンフランシスコ講和条約・日米安保条約が調印。
この年からパチンコが流行し始める。
27
4 28 講和条約の発効により、日本の独立が回復。GHQが廃止される。
5 19 白井義男日本人初のボクシング世界選手権を獲得。
7 21 破壊活動防止法の公布。
8 6 アサヒグラフで原爆の被害写真が初めて公開。
28
2 1 テレビの本放送の開始。
29
3 1 米国のビキニ水爆実験で第5福竜丸被災。
6 9 自衛隊の発足。
この頃冷蔵庫・洗濯機・掃除機が3種の神器と呼ばれる。
30
10 13 左右の社会党が統一大会を開催。
11 15 保守合同により自由民主党が結成、55年体制が誕生。

❖アサヒグラフに見る戦後

アサヒグラフは、大正十二年に朝日新聞社から発刊されたグラフ雑誌の草分け的な存在であります。写真の特性を生かしたビジュアルな紙面は、戦後の一場面をよく伝えています。

第十回 企画展
雑誌に見る戦中戦後
平成七年十月三十一日 発行

編集・発行 徳島県立文書館
〒七七〇 徳島市八万町向寺山
電話 〇八八六(六八)三七〇〇

印刷 原田印刷出版株式会社
〒七七〇 徳島市西大工町四ノ五
電話 〇八八六(二二)二三五六